

富士見市防災環境カルテ
勝瀬町会

位置番号 24

・概況

勝瀬町会は、富士見市の北部に位置し、西側は、台地（台地段丘）で、東側は、台地から新河岸川に面し、水田地帯（氾濫平野）と小高い所（自然堤防）の集落で形成されている。

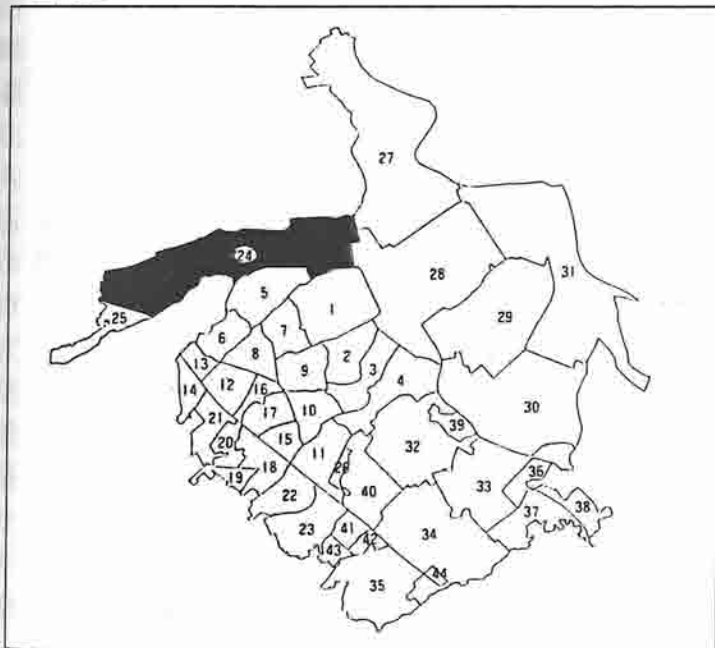
西部地区には、東武東上線が通り、この周辺は、地区計画及び地区整備計画区域（一部勝瀬原特定地区区画整理区域）に指定され、「ふじみ野駅」が新設される地域開発区域となっている。数年後には防災環境も大きく変化するものと予想される。

環境は、武蔵野台地上に住宅地と田園が融和した良好な地域で、勝瀬中学校、富士見環境センター、富士見ガーデンビーチ、榛名神社、勝瀬小学校、護国寺が東部、中央地域に点在している。

水害は、水害履歴から台風に伴う大雨による、砂川堀都市下水路の水位があがり、其の周辺にある下水路の溢水のため、家屋の浸水、水田・畑の冠水被害を受ける内水災害が予想される。

地震災害は、水田地帯で液状化が予想される。

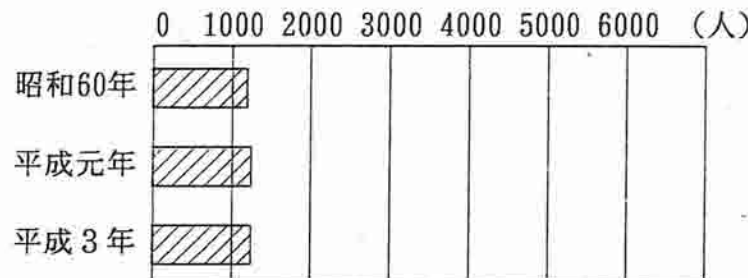
・位置図



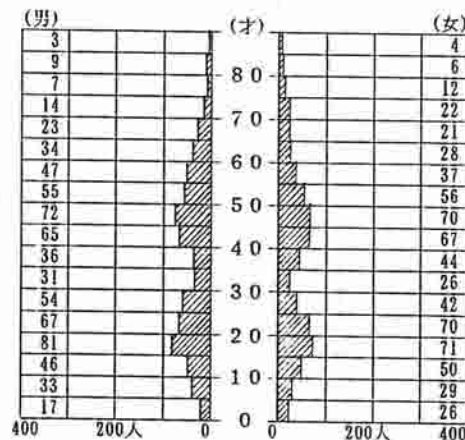
1. 基礎指標

・面積	1.476 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	710人
女	709人
計	1,419人
・人口密度	959.4人/km ²
・寝たきり老人数	4人
・ひとり暮らし老人数	4人
・世帯数	411世帯

・人口推移

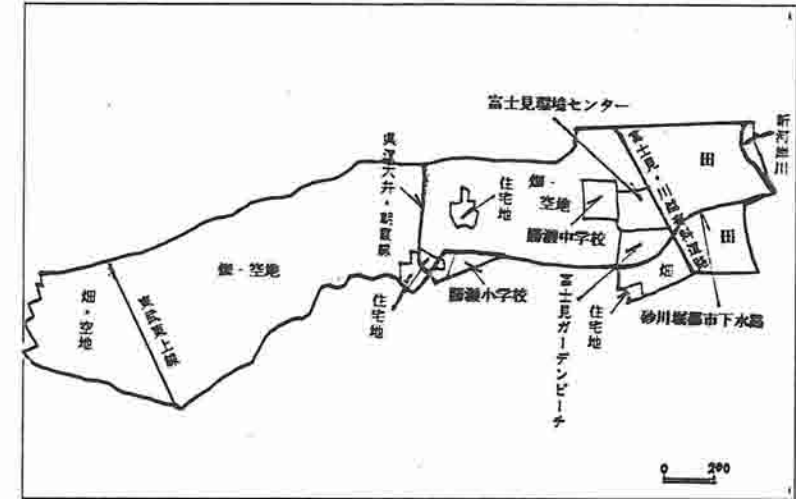


・年令別人口(平成3年)

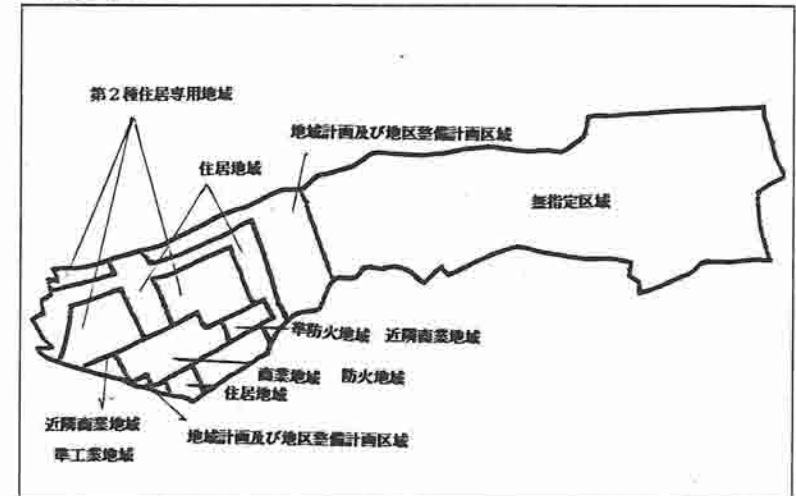


・商住工混在率住居系	88.0%
店舗系	2.9%
工業系	9.1%

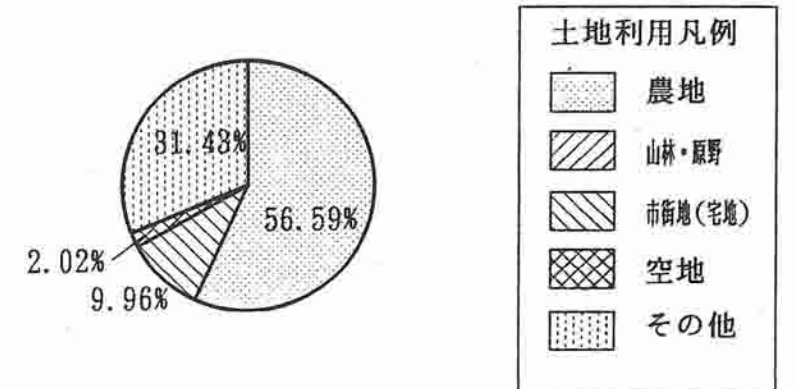
・町会現況図



・用途地域図



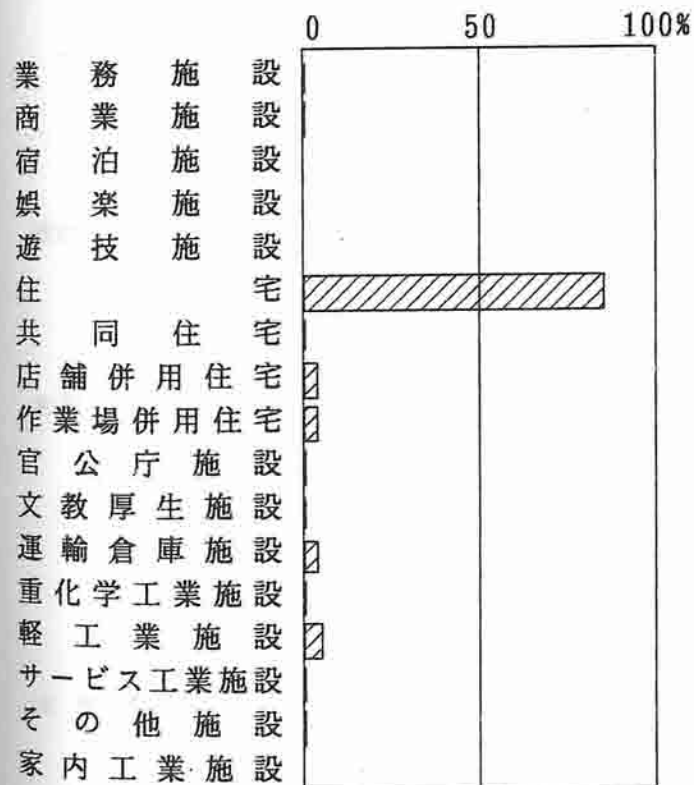
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	652棟
・木造建物	571棟
・非木造建物	81棟
・建物面積	38,692.11㎡
・木造建物	30,980.34㎡
・非木造建物	7,711.77㎡
※建物面積は1階の面積	
・住宅率	85.4%
・木造率	87.6% (571棟)
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	126棟
・同上率	22.1%
・建物階層別現況(木造建物)	
1階	379棟 66.4%
2階以上	192棟 33.6%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	86本	58.3本/㎢
・幹線道路率	6本	4.1本/㎢
・公共空地面積	49,754.7㎡	
・公共空地率	3.4%	
・1人あたり公共空地	35.1㎡/人	
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 勝瀬中学校*	19,806.0㎡	
3. 勝瀬小学校*	21,386.0㎡	
4. 公園	0㎡	
5. 榛名神社*	7,508.7㎡	
6. 勝瀬集会所*	1,054.0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 所沢市、川越地区消防組合、 応援協定 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	24本
・1消火栓あたり世帯数	17.1世帯/本
・消防水利貯水施設数	4 (3) か所 ()内は容量40トン以上の施設数
プール	1
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	2か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和51年 9月(缶17号)	1棟	棟	か所
平成3年 9月(缶18号)	29棟	1棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害(年 ~ 年)			0件
・火災出火件数(平成3年 ~ 年)			1件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	1か所	富永医院
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	0か所	
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

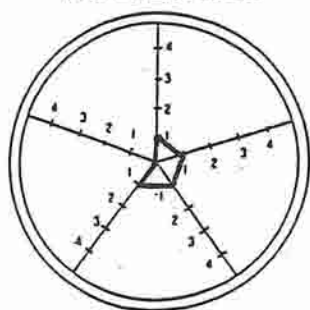
・内水災害危険度	1ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	低地 2 台地 1ランク
・木造建物出火危険度	1ランク
・木造建物延焼危険度	1ランク

地盤危険度	地震動危険度	低地 3	台地 1ランク
液状化危険度	液化危険度	" 1	" 0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

9. 地盤条件

地盤は、台地部（台地段丘）で硬く、水田地帯（氾濫平野）で軟弱地盤となっている。台地部で震度5（+）（強震の強い方）、小高い所（自然堤防）の集落で震度6（-）（烈震の弱い方）、水田地帯で震度6（+）（烈震の強い方）の地震が予想される。

10. 問題点の整理

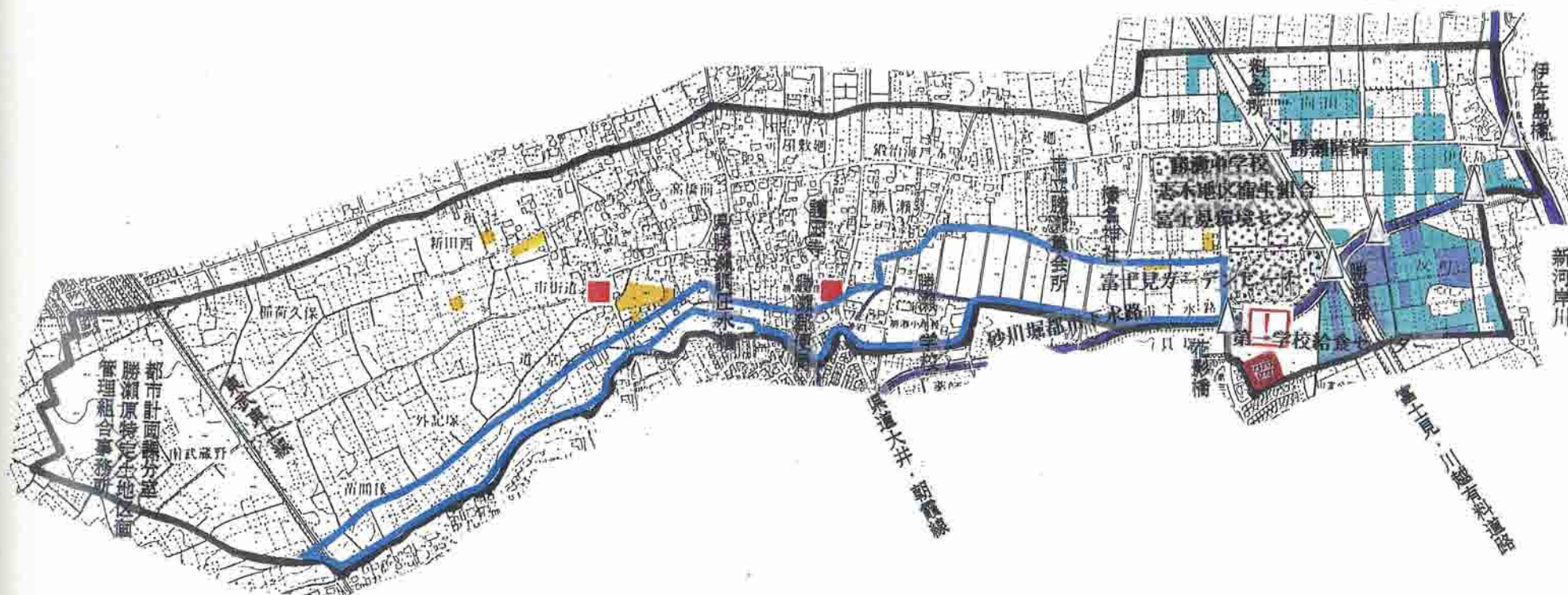
災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	砂川堀都市下水路とその周辺の下水路からの溢水。	1. 水防能力	水防施設は設置されていない。水防能力は低い。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	台地部では木造建物の倒壊の危険性は無いとみてよい。低地部では危険性があるため注意を要する。	3. 消防能力	消火栓、消防水利貯水施設は十分と思われる。一部住宅密集地域の生活道路の幅員が狭いため、消防車の消火能力を防げる恐れがある。
4. 出火危険	出火の危険性は低いと予想される。	4. 防火能力	勝瀬原特定土地区画整理区域を除いて、木造家屋住宅地の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃化領域率は100%と高いため延焼の危険性はない。	5. 避難収容力	勝瀬中学校、勝瀬小学校、勝瀬集会所、榛名神社が避難所に指定されているが、他地区の避難所と共用されているため、収容力は十分でない。（勝瀬小学校は大井町隣接地区と共用）1人あたり公共空地は35.1㎡/人と見込まれるため1人あたりの避難面積は大きい。
6. その他の災害	水田地帯は軟弱地盤のため液状化の危険性がある。		

11. 解決の方向性

内水災害の予防対策として、砂川堀都市下水路の図川合流点付近に水防施設（排水ポンプ場）を設置する。また、砂川堀都市下水路と新河岸川の合流部に排水機場の設置も排水能力をあげるために重要である。水田地帯の液状化が予想されるため、水田作業以外の用途で使用している建物は、建物のまわりに連続壁や矢板などを設けて、液状化予防対策の指導を行う必要がある。避難可能な道路に沿った市街地内の自動販売機の転倒、ブロック塀の倒壊、看板の落下による道路の狭隘化を防ぐ予防対策の指導が望まれる。

※ 想定震度 台地5（+）（強震（強））

防災現況図A(災害発生要因)



凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立 体 交 差
■	木造家屋密集地域
—	河 川 ・ 水 面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
●	盛 土
□	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域

